

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターにおけるオリンピック・パラリンピック  
教育の取り組み: 教員セミナー・ワークショップおよび市民フォーラムの事業を中心に

A report of Olympic & Paralympic education in WASEDA Research Center for Olympic & Paralympic  
Education: Focusing on the seminar & workshop for teacher and the citizen forum

友添秀則<sup>1)</sup>, 深見英一郎<sup>2)</sup>, 吉永武史<sup>3)</sup>, 岡田悠佑<sup>4)</sup>, 根本想<sup>5)</sup>, 竹村瑞穂<sup>6)</sup>,  
小野雄大<sup>7)</sup>, 青木彩菜<sup>8)</sup>, 鈴木康介<sup>9)</sup>

1), 2), 3), 4), 7), 8) 早稲田大学スポーツ科学学術院

5) 早稲田大学スポーツ科学研究センター

6) 日本福祉大学スポーツ科学部

9) 中部学院大学スポーツ健康科学部

Hidenori Tomozoe<sup>1)</sup>, Eiichiro Fukami<sup>2)</sup>, Takeshi Yoshinaga<sup>3)</sup>, Yusuke Okada<sup>4)</sup>,  
So Nemoto<sup>5)</sup>, Mizuho Takemura<sup>6)</sup>, Yuta Ono<sup>7)</sup>, Ayana Aoki<sup>8)</sup>, Kosuke Suzuki<sup>9)</sup>

1), 2), 3), 4), 7), 8) Faculty of Sport Sciences, Waseda University

5) Waseda Institute for Sport Sciences

6) Faculty of Sport Sciences, Nihon Fukushi University

9) Faculty of Sports and Health Science, Chubu Gakuin University

キーワード: スポーツ庁, オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業,  
オリンピック, パラリンピアン

Key words: JAPAN SPORTS AGENCY, Olympic & Paralympic Empowerment,  
Olympian, Paralympian

【抄 録】

スポーツ庁が推進する「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」(以下、「オリ・パラ事業」)の委託を受けて、2016(平成 28)年 7 月 29 日付で早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター(WASEDA ROPE:WASEDA Research Center for Olympic & Paralympic Education;以下、「早大オリ・パラセンター」)が発足した。平成 28 年度における早大オリ・パラセンターは、岩手県、広島県、熊本県の各教育委員会および各学校と連携して事業をすすめた。

そこで、本稿では、早大オリ・パラセンターの平成 28 年度に行った事業を紹介することを目的とした。日本では、これまで東京(1964 年)、札幌(1972 年)、長野(1998 年)と計 3 回(夏季 1 回、冬季 2 回)のオリンピック大会、また、札幌を除く計 2 回(夏季 1 回、冬季 1 回)のパラリンピック大会を開催している。そして、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、夏季大会としては、前回の東京大会以来、56 年ぶりの自国開催となる。本稿において、研究資料という形で、早大オリ・パラセンターの事業を報告することは、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催に向けたわが国のオリンピック・パラリンピック教育の展開を振り返る際の貴重な資料となる点に意義があると考えた。なお、早大オリ・パラセンターの事業は、授業場面と授業場面以外の事業に大別でき、本稿では、特に授業場面以外の事業を中心に記述した。

具体的には、①オリ・パラ教育普及のための組織づくり、②教員セミナー・ワークショップの開催、③市

民フォーラムの開催の 3 点について詳細に紹介した。

スポーツ科学研究, 14, 57-71, 2017年, 受付日:2017年5月31日, 受理日:2017年9月7日  
連絡先: 友添秀則 〒359-1192 所沢市三ヶ島2-579-15 早稲田大学スポーツ科学学術院  
tomozoe@waseda.jp

## I. オリンピック・パラリンピック教育の隆盛

第二次世界大戦後, 国際オリンピック委員会(以下, “IOC”)は, オリンピック教育推進のために様々な取り組みを行ってきた。ローラント・ナウル(2016)によれば, IOC のオリンピック教育推進のための取り組みは, 次の 5 つの段階に分けることができる。

1961(昭和 36)年 国際オリンピック・アカデミー (IOA) 開設

1964(昭和 39)年 東京大会でオリンピック・ユース・キャンプ開催

1983(昭和 58)年 国内オリンピック・アカデミー (NOA) 開設

1994(平成 6)年 IOC 創設 100 周年を祝う総会でオリンピック教育の必要性が強く訴えられ開催地立候補地の申請のためのマニュアルで文化的プログラムの計画の中に教育的要素を含めることが強調された

2010(平成 22)年 ユース・オリンピック開催  
(ローラント・ナウル, 2016, pp. 30-35)

このような IOC の取り組みを背景に世界各国でオリンピック開催に際して教育プログラムが実施されるようになった(ナウル, 2016, pp. 94-117)。日本では, 1964(昭和 39)年の東京大会の開催に向けて『オリンピック読本』が小・中学校に配布されたり, 1972(昭和 47)年の札幌大会に向けて, 札幌市内の学校に『オリンピック学習の手引き』などが配布され, 冬季スポーツや冬季オリンピックなどについての学習が行われたりした(日本オリンピック・アカデミー編, 2008)。特に 1998(平成 10)年の長野冬季オリンピック・パラリンピックの際に行われた「一校一国運動」は, 大会終了後も継続して取り組まれ, 後のオリンピック教育に影響を及ぼしたことが報告されている(高木, 2013; ナウル,

2016)。

また, 近年では上述のオリンピック教育と並んでパラリンピック教育も盛んに行われるようになってきた。2012(平成 24)年のロンドン大会では, ロンドンオリンピック・パラリンピック教育プログラム「Get Set」が考案され, イギリス国内約 24,000 校で実施され, 生徒にポジティブな影響を及ぼしたことが報告されている(「ゲットセット」ホームページ: <http://www.getset.co.uk/>, 「日本財団パラリンピックサポートセンター」ホームページ: <https://www.parasapo.tokyo/news/123/>)。

このようなオリンピック・パラリンピック教育(以下, 「オリ・パラ教育」)の隆盛の中で, 2020 年にオリンピック・パラリンピック競技大会を開催予定の東京でも, オリ・パラ教育を実施するための準備が進められてきた。2015(平成 27)年 2 月 27 日には, 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた教育プログラムのあり方を検討する「オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議」(以下, 「有識者会議」)が開催された(計 9 回)<sup>注 1)</sup>。有識者会議では, まず「オリンピック憲章」に定められたオリンピズムの目的(「人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会を奨励することを目指し, スポーツを人類の調和の取れた発展に役立てること」)や, オリンピック・ムーブメントの目的(「オリンピズムとオリンピズムの価値に則って実践されるスポーツを通じ, 若者を教育することにより, 平和でより良い世界の構築に貢献する」), さらに IOC の定めるオリンピックの価値(卓越 Excellence, 友情 Friendship, 敬意/尊重 Respect)と IPC(国際パラリンピック協会: International Paralympic committee)の定めるパラリンピックの価値(勇気 Courage, 決意 Determination, 平等 Equality, インスピレーション Inspiration)が確認された。さらに有識者会議では, 上述のようにオリンピック・パラリンピックの開

催地が取り組むべき活動の方向性を明確にしたうえで、東京大会の意義・理念<sup>注 2)</sup>を確認するとともに、オリンピック・パラリンピック教育の目的を次のように定めた。

- ① スポーツの意義や価値等に対する国民の理解・関心の向上
- ② 障害者を含めた国民の、幼少期から高齢期までの生涯を通じたスポーツへの主体的な参画(「する」、「見る」、「支える」、「調べる」、「創る」)の定着・拡大
- ③ 児童生徒をはじめとした若者に対する、これからの社会に求められる資質・能力等の育成  
(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 4)

さらに、これらの目的を達成するために「大会を国民総参加による日本全体の祭典」と考える政府の意向も踏まえて、すでに先行的に取り組まれていた「東京都、組織委員会の取組と十分な連携を図りながら、全国的あるいは地域的な推進体制の整備を図ること」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 7)が具体的な課題として挙げられた<sup>注 3)</sup>。こうして、先行的にスポーツ庁が平成 27 年度に行っていたオリ・パラ教育の推進のための効果的な手法に関する調査研究事業<sup>注 4)</sup>を発展させる形で「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」(以下、「オリ・パラ事業」)が進められることとなった。

そして、上述のスポーツ庁が推進するオリ・パラ事業の委託を受けて、2016(平成 28)年 7 月 29 日付で早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター(WASEDA ROPE: WASEDA Research Center for Olympic & Paralympic Education; 以下、「早大オリ・パラセンター」)が発足した<sup>注 5)</sup>。そこで本稿では、早大オリ・パラセンターの平成 28 年度に行った事業を紹介する。本稿において、研究資料という形で、早大オリ・パラセンターの事業を報告することは、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催に向けたわが国

のオリンピック・パラリンピック教育の展開を振り返る際の貴重な資料となる点に意義があると考えた。

## II. 平成 28 年度の早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターの事業

スポーツ庁が推進するオリ・パラ事業の目的は「地域の人々のオリンピック・パラリンピック、さらにはスポーツに対する興味・関心を高め、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けての機運を盛り上げること」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 1)である。そして、スポーツ庁の委託により平成 28 年度の早大オリ・パラセンターは、岩手県、広島県、熊本県の各教育委員会及び各校と連携して事業を進めることとなった。早大オリ・パラセンターの事業は、①オリ・パラ教育普及のための組織づくり、②教員セミナー・ワークショップの開催、③授業実践、④市民フォーラムの開催の 4 つ(実施順)にわけることができる。これらの事業は、授業場面(③授業実践)と授業場面以外(①組織づくり、②教員セミナー・ワークショップの開催、④市民フォーラム)に大別できる。そこで、本稿では、特に授業場面以外の事業を中心に、早大オリ・パラセンターの取り組みを紹介する。なお、授業場面(③授業実践)の事業に関しては、学校種別に別稿にて紹介する予定である。

### 1. オリ・パラ教育普及のための組織づくり

オリ・パラ事業を進めるうえで、まずは、各担当地域にコンソーシアム<sup>注 6)</sup>を形成することとなった。岩手県では、岩手県教育委員会、岩手大学、そして各学校で岩手県コンソーシアムを形成した。広島県も同様に、広島県教育委員会、広島大学、そして各学校で広島県コンソーシアムを形成した。熊本県では、県・市教育委員会、熊本大学、熊本県体育協会、そして各学校を NPO 法人「ひとつづくりくまもとネット」<sup>注 7)</sup>が統括するという他 2 県とは異なるコンソーシアムの形となった。これらの組織を図示すると、以下の通りである(図 1)。

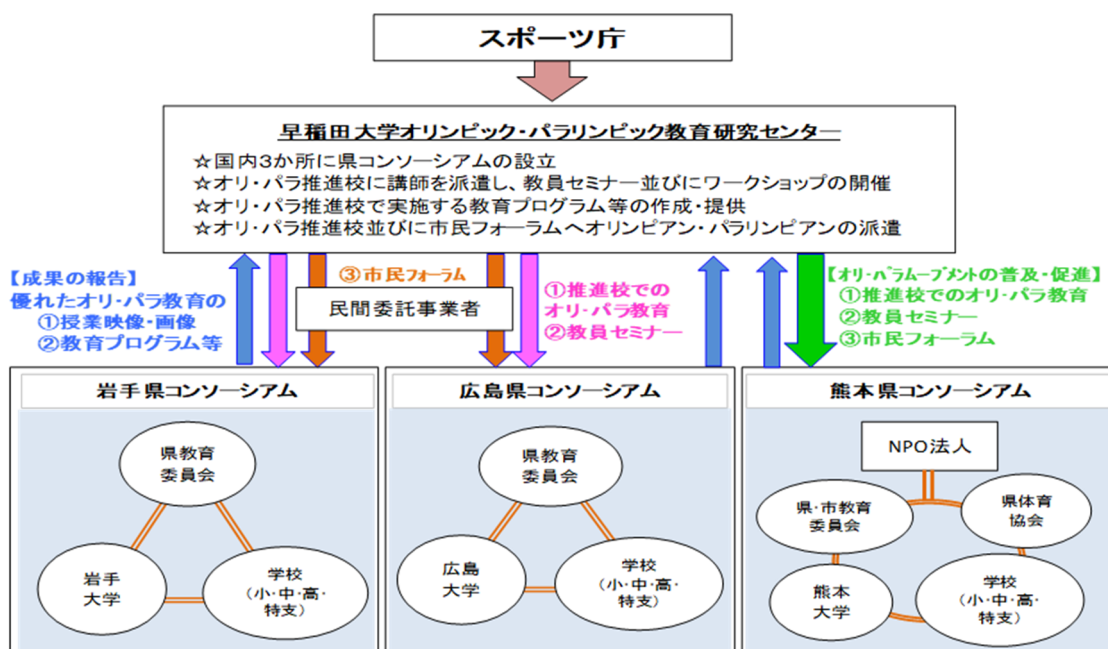


図 1: オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業組織図

さらに、各組織の役割分担は次の通りである(表 1)。

表 1: 各組織の役割分担

	岩手県コンソーシアム	広島県コンソーシアム	熊本県コンソーシアム
教育委員会	・コンソーシアムの立ち上げ ・オリ・パラ推進校の指定 ・オリ・パラ教育に関わる オリンピック・パラリンピアンを選定 ・市民フォーラムの開催・運営	・コンソーシアムの立ち上げ ・オリ・パラ推進校の指定 ・オリ・パラ教育に関わる オリンピック・パラリンピアンを選定 ・市民フォーラムの開催・運営	・コンソーシアムの立ち上げ ・オリ・パラ推進校の指定 ・オリ・パラ教育に関わる オリンピック・パラリンピアンを選定 ・市民フォーラムの開催・運営
大学	・市民フォーラムの開催・進行	・市民フォーラムの開催・進行	・市民フォーラムの開催・進行
各学校	・オリ・パラ教育の実施 ・教員セミナー並びに ワークショップ等の開催	・オリ・パラ教育の実施 ・教員セミナー並びに ワークショップ等の開催	・オリ・パラ教育の実施 ・教員セミナー並びに ワークショップ等の開催
県体育協会			・市民フォーラムの参加動員・講演
NPO法人			・コンソーシアムの事務処理 ・オリンピック・パラリンピアンを招聘

(「平成 28 年度スポーツ庁委託事業オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業報告書」

pp.2-3 をもとに作成)

## 2. 教員セミナー・ワークショップの開催

オリ・パラ教育を進めるうえで、オリ・パラ教育の目的や方法について、実際に授業を実施する先生方に理解を深めてもらう必要がある。そこで、オリ・パラ教育の授業実施前に教員セミナーを開催し、さらに授業実施後に授業実践を振り返るワークショップを開催した<sup>注 8)</sup>。なお、教員セミナーは、大学教員等有識者の講義中心で行い、ワークショップは出席された先生方と教育委員会の方々、そして大学教員等有識者が協力して教材や指導案を再検討する形式で実施した。以下には、事

例として広島県の教員セミナーとワークショップの様子を示す。

広島県における教員セミナーの概要は、以下の通りである<sup>注 9)</sup>。

日時：2016(平成 28)年 10 月 25 日(火)13 時  
30 分～16 時 30 分

会場：広島県立総合体育館ミーティングルーム

主催：広島県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加：14 名(教員 12 名、広島県教育委員会 2 名)

教員セミナーでは、開催挨拶(黒田康弘氏:広島県教育委員会事務局)、事業説明(光橋健氏:広島県教育委員会事務局)の後に、「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業の取組について」(深見英一郎氏:早稲田大学スポーツ科学学術院)と「『体育理論』領域におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進について」(杉山正明氏:早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター)という講義を実施した。深見氏の講義では、「オリンピックのみならずパラリンピックへの機運醸成をはかること」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 10)や「広島県と協力して2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催された後にも、レガシーとして残っていくような取り組みを推進したい」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 10)という内容が伝えられた。杉山氏の講義では、「オリンピックの3つの価値(卓越, 友情, 敬意/尊重)や、パラリンピックの4つの価値(勇気, 決意, 平等, 鼓舞)について」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 10)や、「具体的な授業展開例として、学習指導要領の内容に準拠した『体育理論』領域の系統的な授業づくりの方法」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 10)についての内容が伝えられた。

前述の通り、各校でオリ・パラ教育の授業実践を行った後に、振り返りのためにワークショップを開催した。広島県におけるワークショップの概要は、以下の通りである。

日時: 2017(平成29)年3月2日(木)13時30分~16時30分

会場: 県立総合体育館ミーティングルーム

主催: 広島県教育委員会, 早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加: 14名(教員12名, 広島県教育委員会2名)

ワークショップでは、開催挨拶(深見英一郎氏:早稲田大学スポーツ科学学術院)の後に、光橋健氏(広島県教育委員会)より「平成29年度の取組について」の報告が行われた。光橋氏の報告では、平成28年度の事業報告に加えて「今年度は高等学校での実践のみであったため、来年

度は他の校種でも事業を行い、推薦校の数も増やしていきたい」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 13)ことや、「他県で行われる全国セミナーや全国ワークショップにも積極的に参加し交流を図っていきたい」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 13)などの平成29年度に向けた意見も出された。さらに、実際に授業を実施した先生方からも報告をいただいた。その中では、「生徒たちのスポーツに対する関心が高まった」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 14)ことや、「自身の生き方・考え方を振り返り成長の糧にすることができた生徒が多かった」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 14)ことなどのオリ・パラ教育の成果に関する意見が出された。また、改善点として「派遣選手やオリンピック・パラリンピックについて事前学習を十分に実施するようにしたら、また違った視点で生徒が思考することができたのではないか」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 14)という意見も出た。次に、ワークショップでは先生方に3つのグループに分かれてもらい、オリ・パラ教育のモデル授業を作成する取り組みを行った。その際、次の3点を意識してモデル授業の作成を行ってもらった。

「スポーツ」「オリンピック」に対する深い理解

「オリンピックムーブメント」への主体的な参加

2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会への参画

約90分間にわたる協議が行われ、生徒のオリンピック・パラリンピックに関する理解を深めるための授業の方法に関して議論が深められ、それらの議論を総括してモデル授業の指導案を作成した(資料1)。

### 3. 授業実践

前述の通り、本稿では平成28年度に早大オリ・パラセンターが実施した事業の中で、授業実践以外の事業を中心に紹介するため、③授業実践に関しては、概要だけを整理して紹介する。

まず、オリンピック・パラリンピアンへの派遣にあたって、各県教育委員会を通じて、各推進校で派遣オリンピック・パラリンピアンに関する希望調査

を実施した(表 2). そして, 派遣オリンピック・パラリンピアンについては, 岩手県, 広島県では, 株式会社電通テック(2017 年 1 月 4 日より電通ライブに社名変更)に, 熊本県では, NPO 法人「ひとづくりくまもとネット」に委託した.

表 2: 派遣オリンピック・パラリンピアンに関する希望調査

学校名	県			学校
住所				
最寄り駅からの経路	駅 から			分
担当者氏名				
担当者連絡先				
学校の特徴など (簡単に結構です)				
実施希望日 (※平成28年12月～ 平成29年2月28日の期間)	第1希望		時間帯	
	第2希望		時間帯	
	第3希望		時間帯	
対象(原則2クラス程度。講演は全校児童 児童館可。)	第 学年			名
場所(原則校内のみ)	(例) 体育館、教室			
希望内容(該当欄に○) <input type="checkbox"/> 授業 (分野: _____) ※TTを希望 <input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> 講義 (内容: _____) <input type="checkbox"/> 実技 (種目: _____)	具体的内容・要望			
希望オリンピック またはパラリンピアン (選手の派遣は各学校に1名のみ)	第1希望			
	第2希望			
	第3希望			
その他要望など				

【注意事項】

※選手との日程調整には多くの時間を要するため、**実施希望日の2ヶ月前までには、本用紙を必ずご提出ください。**  
 ※ご希望の日程で、ご希望の選手の都合がつかない場合は、別の選手になる可能性があります。ご了承ください。その場合は、一度学校にご連絡いたします。  
 ※原則として、授業または講演で1コマと実技1コマの計2コマまでの依頼となります。選手の都合によって、どちらか一方になる場合もありますので、予めご了承ください。

オリ・パラ教育の推進校, 実施日及び派遣オリ あるいは注<sup>10)</sup>(表 3).  
ンピアン・パラリンピアンを整理すると, 次の通りで

表 3: オリンピック・パラリンピック教育の推進校一覧

県名	校種	学校名	実施日	派遣オリンピック・パラリンピアン	出場大会
岩手	小学校	山田町立山田南小学校	2017/1/26	平瀬新行(サッカー)	第27回シドニー
		二戸市立福寿小学校	2017/2/21	山本陸弘(バレーボール)	第28回北京
	中学校	盛岡市立栢野中学校	2016/12/13	橋本高徳(チェアスキー)	第10回バンクーバー
	高等学校	岩手県立盛岡南高等学校	2017/2/2	千田健太(フェンシング)	第30回ロンドン 第30回ロンドン 第31回リオデジャネイロ
広島	高等学校	広島県立三次高等学校	2016/12/2	星奈津美(競泳)	第28回北京
		広島県立福山灌漑高等学校	2016/12/7	青木実 (シンクロナイズドスイミング)	第25回バルセロナ
		広島県立湯来南高等学校	2017/1/12	岩崎浩子(競泳)	第28回北京
		広島県立五日市高等学校	2017/1/20	山本陸弘(バレーボール)	第28回北京
		広島県立神辺旭高等学校	2017/1/24	菅野浩治(バレーボール)	第28回北京
		広島県立世羅高等学校	2017/1/24	大山加菜(バレーボール)	第28回アテネ
		広島県立尾道商業高等学校	2017/1/25	大山加菜(バレーボール)	第28回アテネ
		広島県立広島皆実高等学校	2017/1/26	市橋有里(陸上競技)	第27回シドニー
熊本	小学校	熊本市立白山小学校	2016/9/8	伊藤華英(競泳)	第28回北京 第30回ロンドン
		菊池町立菊池中部小学校	2017/1/17	副島正純(車いすマラソン)	第12回アテネ 第13回北京 第14回ロンドン 第15回リオデジャネイロ
		小国町立小国小学校	2017/1/31	物使川原郁恵 (ショートトラックスピードスケート)	第18回長野 第19回ノリトレイクシティ 第20回ソチ
		熊本市立北都東小学校	2017/2/1	物使川原郁恵 (ショートトラックスピードスケート)	第18回長野 第19回ノリトレイクシティ 第20回ソチ
		熊本市立長嶺小学校	2017/2/8	虎淵誠(視覚障害者柔道)	第12回アテネ 第13回北京 第14回ロンドン 第15回リオデジャネイロ
		熊本市立力合西小学校	2017/2/9	高橋千恵美(陸上競技)	第27回シドニー
		熊本市立白坪小学校	2017/2/10	高橋千恵美(陸上競技)	第27回シドニー
		水俣市立袋小学校	2017/2/21	物使川原郁恵 (ショートトラックスピードスケート)	第18回長野 第19回ノリトレイクシティ 第20回ソチ
	中学校	宇土市立鶴城中学校	2017/2/6	川上優子(陸上競技)	第26回アランタ 第27回シドニー
		八代市立第一中学校	2017/2/7	虎淵誠(視覚障害者柔道)	第12回アテネ 第13回北京 第14回ロンドン 第15回リオデジャネイロ
		あさぎり町立あさぎり中学校	2017/2/13	花岡伸和(車いすマラソン)	第12回アテネ 第14回ロンドン
		山鹿市立山鹿中学校	2017/2/14	花岡伸和(車いすマラソン)	第12回アテネ 第14回ロンドン
		熊本市立長嶺中学校	2017/2/22	大谷佐知子(バレーボール)	第24回ソウル
		南郷町立南郷中学校	2017/2/23	山本洋祐(柔道)	第24回ソウル
		天草市立本渡中学校	2017/2/23	秋山エリカ(新体操)	第24回ソウル 第24回ソウル
	高等学校	熊本県立熊本高等学校	2017/2/22	副島正純(車いすマラソン)	第12回アテネ 第13回北京 第14回ロンドン 第15回リオデジャネイロ
		熊本県立八代東高等学校	2017/2/22	物使川原郁恵 (ショートトラックスピードスケート)	第18回長野 第19回ノリトレイクシティ 第20回ソチ
	特別支援学校	熊本県立盲学校	2017/3/3	小宮正江(ゴールボール)	第12回アテネ 第14回ロンドン
			2017/3/3	瀧田理恵(ゴールボール)	第14回ロンドン

(敬称略)

さらに、これらの推進校を校種別にまとめると、以下の通りになる(表 4)。

表 4: オリンピック・パラリンピック教育推進校(校種別)

校種	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
学校数	10	8	11	1

また、各授業の成果を検討するために、「オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート」を実施した(資料 2; 資料 3)。なお、質問項目は、内閣府の「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査」(内閣府, 2015)を参照した。

#### 4. 市民フォーラムの開催

冒頭で述べた通り、「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」は、「地域の人々のオリンピック・パラリンピック、さらにはスポーツに

対する興味・関心を高め、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けての機運を盛り上げること」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 1)であり、オリ・パラ教育はその一環である。そのため、学校だけでなく担当地域の市民に向けた取り組みもオリ・パラ事業にとって重要な取り組みとなる。そこで、平成 28 年度は担当した 3 地域で「(各地域)発」オリンピック・パラリンピック・ムーブメント」というテーマで市民向けのフォーラムを開催した。開催の概要は以下の通りである(表 5)。

表 5: 市民フォーラムの概要

地域	日時	会場	コーディネーター	パネリスト
岩手	2017/1/7 15.10-16.40	アイーナいわて 県民情報交流センター	清水将 (岩手大学)	小椋久美子 (北京オリンピック/バドミントン) 芦田創 (リオデジャネイロパラリンピック/陸上) 友添秀則 (早稲大学)
広島	2017/1/20 18.30-20.20	北広島町千代田開発センター	齊藤一彦 (広島大学) 吉永武史 (早稲田大学)	荻野正二 (バルセロナ・北京オリンピック/バレーボール) 星奈津美 (ロンドン・リオデジャネイロオリンピック) 横澤高德 (バンクーバーパラリンピック/アルペンスキー)
熊本	2017/2/24 13.30-16.50	ホテル熊本テルサ テルサホール	中川保敬 (熊本大学)	荻原次晴 (長野オリンピック/スキー) 廣瀬誠 (アテネ・北京・ロンドン・リオデジャネイロ パラリンピック/視覚障害者柔道)

(「平成 28 年度スポーツ庁委託事業オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業報告書」pp.17-24 をもとに作成: 敬称略)



また、各フォーラムの参加者数は、以下の通りである(表 6)。

表 6: 各フォーラムの参加者数

開催地	岩手	広島	熊本
参加者数(人)	300	60	120

次に、各フォーラムでの内容について紹介する。岩手県では、小椋久美子氏(北京オリンピック/バドミントン)、芦田創氏(リオデジャネイロパラリンピック/陸上)、友添秀則氏(早稲田大学スポーツ科学学術院教授)を迎えシンポジウムを開催した。小椋久美子氏からは、「トップアスリートだからこそ経験した栄光と苦悩や葛藤、それらを乗り越えた先にある成長についての話」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 18)、芦田創氏からは、「障がいを負った自身の生き立ちも交え、スポーツとは努力した分だけ必ず自分に成果が返ってくるものであり、自分が輝けるもの、自分を好きになれるものである」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 18)という話をしていただいた。さらに、両名から「声援は力となり勇気を与えてくれる」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 18)という話をしていただき、2020年東京オリンピックの際にも、岩手からの声援が力になるということを伝えていただいた。また、岩手県が2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地でもあることから「子供たちに活力を与え地域の復興に貢献していきたい」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 18)という抱負も伝えていただいた。さらに、友添秀則氏からは、「2020年の東京オリンピック・パラリンピックに岩手県からどれだけ多くの若い人々がボランティアとして参加し、彼/彼女らがそこでの体験をもとにその後も岩手県にどのように関わっていくことができるか」という点が、復興に繋がる重要なポイントではないか」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 18)という話をしていただいた。なお、岩手県でのフォーラムの様子は、岩手日報(2017年1月8日付朝刊)で取り上げられた。

広島県では、荻野正二氏(バルセロナ・北京オリンピック/バレーボール)、星奈津美氏(ロンドン・リオデジャネイロオリンピック/競泳)、横澤高德氏(バンクーバーパラリンピック/アルペンスキ

ー競技)を迎えシンポジウムを開催した。荻野正二氏からは、「目薬一滴だけでもドーピング違反になってしまう可能性があるため、重圧を背負いながら検査を受けた」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 20)というドーピング検査の体験談、星奈津美氏からは、「甲状腺の全摘出手術を乗り越えてリオデジャネイロオリンピックで銅メダルを獲得するまでの過程について」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 20)、そして横澤高德氏からは、「障がい者スポーツを支える人や環境を整備していくことの重要性について」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 20)の話をしていただいた。さらに、シンポジウムの終盤では、広島の地域の方々の2020年の東京オリンピック・パラリンピックへの関わり方について、声援が選手の力になること(星奈津美氏)や、海外のトップレベルの試合を観戦すること(荻野正二氏)、さらには、ボランティアとしての関わり(横澤高德氏)などについて意見をいただいた。

熊本県では、荻原次晴氏(長野オリンピック/スキー)と廣瀬誠氏(アテネ・北京・ロンドン・リオデジャネイロパラリンピック/視覚障害者柔道)を迎えシンポジウムを開催した。荻原次晴氏からは、「金メダリストの兄(荻原健司氏:筆者注)とオリンピックに出場できない自分とを比較してしまい悩むこともあった」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 22)こと、「その苦悩を乗り越えるために懸命に努力したため、長野オリンピック(1988年)への出場を果たすことができた」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 23)ことなどの話をしていただいた。廣瀬誠氏からは、「パラリンピックのメダルには、鈴が入っており、目が見えない人への配慮がなされていること」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 23)や「日常にあふれている『当たり前』に感謝することの大切さについて」(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 23)の話をしていただいた。なお、熊本

県でのフォーラムの様子は、熊本日日新聞(2017年2月25日付朝刊)で取り上げられた。

### III. まとめ

本稿では、スポーツ庁が推進する「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」の委託を受けて発足した早大オリ・パラセンターの平成28年度の事業について、①オリ・パラ教育普及のための組織づくり、②教員セミナー・ワークショップ、③授業実践、④市民フォーラムの4点のうち、③授業実践以外の取り組みを中心に紹介した。なお、③授業実践に関しては、詳細に記述することができなかつたため、別稿にて各授業後に行った「オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート」の結果とともに紹介する。

### 付記

本研究は、平成28年度「スポーツ庁委託事業 オリンピック・パラリンピック教育全国展開事業」(代表友添秀則)を受けて行った。

### 注

注1) 有識者会議委員は、以下の通りである。朝原宣治、池田延行、伊藤数子、岡崎助一、大日方邦子、小田垣勉、加藤久雄、河合純一、佐藤郡衛、真田久、佐野慎輔、杉野学、坪野谷雅之、中村健史、二宮雅也、布村幸彦、藤田紀昭、堤雅史、室伏広治、山本一郎、結城和香子、吉本光宏(五十音順、敬称略)。また、有識者会議での議題は、以下の通りである(表7)。

表7:有識者会議の日程・内容

回数	開催日時	審議内容
第1回	2015/2/27	・オリンピック・パラリンピック教育の取組について ・東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の取組について ・今後の検討課題について
第2回	2015/3/26	・筑波大学附属大塚特別支援学校における取組について ・東京都おける(ママ)取組について ・今後の検討課題について
第3回	2015/4/17	・一校一國運動の取組について ・大学関係の取組について ・今後の検討課題
第4回	2015(平成27)年5月13日	・オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの推進及び普及啓発活動について ・今後の検討課題について
第5回	2015(平成27)年6月12日	・中間まとめ(素案)について
第6回	2015(平成27)年7月9日	・民間企業の取組について
		・中間まとめ(案)について
第7回	2016(平成28)年4月6日	・オリンピック・パラリンピック教育の推進のための効果的手法について
第8回	2016(平成28)年6月27日	・スポーツ庁におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進について
		・最終報告(素案)について
第9回	2016(平成28)年7月21日	・最終報告(素案)について

(「オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて最終報告」p. 24をもとに作成)

注2) 東京大会の意義・理念は、2015(平成27)年11月27日に閣議決定した「2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針」

([http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020\\_suishin\\_honbu/kaigi/dai2/siryou1-2.pdf](http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/kaigi/dai2/siryou1-2.pdf))において示され、有識者会議では次の5点にまとめられた。

- ① 日本を再興し、成熟社会における先進的な取組を世界に示すこと
- ② パラリンピックの開催は、障害者の自立や社会参加を促す大きな力であり、参加国・地域数についてオリンピックとの差が縮まるよう過去最多を目指すこと
- ③ 「復興五輪」として東日本大震災からの復興の後押しとなるよう被災地と連携した取組を進めるとともに、被災地が復興を成し遂げつつある姿を世界に発信すること
- ④ 国民総参加による日本全体の祭典とし、地域活性化につなげること
- ⑤ 強い経済の実現、日本文化の魅力発信、スポーツを通じた国際貢献、健康長寿・共生社会・生涯現役社会の構築など、成熟社会にふさわしい次世代に誇れる遺産を抄出すること  
(早大オリ・パラセンター, 2017, p. 2)

注 3) 東京都では、2014(平成 26)年 10 月に有識者会議を設置し、オリンピック・パラリンピック教育の進め方に関して検討を重ね、オリンピック・パラリンピック教育の 4 つの目標(自らの目標を持って自己を肯定し、自らのベストを目指す意欲と態度を備えた人、スポーツに親しみ、「知」、「徳」、「体」の調和のとれた人、日本人としての自覚と誇りを持ち、自ら学び行動できる国際感覚を備えた人、多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる人)と 3 つの方針(全ての子供が大会に関わる、体験や活動を通じて学ぶことを重視する、計画的・継続的に教育を展開する)を定めた。そして、具体的には、オリンピック・パラリンピック教育の指定、オリンピック・パラリンピアン等の学校派遣、学習読本と映像教材(補助教材)の作成などに取り組んでいる(東京都教育委員会ホームページ：<https://www.o.p.edu.metro.tokyo.jp/index>)。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会では、「東京 2020 教育プログラム」(愛称:「よーい、ドン!」)を展開しており、オリンピック・パラリンピック教育に取り組む学校の教育事業を東京 2020 オリンピック・パラリンピック教育推進校(愛称:「よーい、ドン!スクール」)として認証する

制度をつくり、オリンピック・パラリンピック教育の実践を推奨している(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ホームページ：<https://tokyo2020.jp/jp/>)。

注 4) 平成 27 年度にスポーツ庁が行ったオリ・パラ教育の推進のための効果的な手法に関する調査研究事業は、筑波大学を拠点として宮城県、京都府、福岡県の教育委員会と連携して行われた(筑波大学オリンピック教育プラットフォームホームページ：<http://core.taiiku.tsukuba.ac.jp/project>)。

注 5) 委託を受ける際の受託責任者は、鎌田薫教授(早稲田大学総長)、事業実施責任者は友添秀則教授(早稲田大学スポーツ科学学術院)、事務局長は深見英一郎准教授(早稲田大学スポーツ科学学術院)である。

注 6) コンソーシアム(consortium)とは、『広辞苑第六版』によれば「協会・組合・多く、特定の目的のために集まった企業連合」(p. 1075)、三省堂の『国語辞典第七版』によれば「〔共通の目的のために結成する〕団体・企業などの連合」(p. 543)を意味する。

注 7) 熊本県でオリ・パラ事業の統括を担当した NPO 法人である「ひとづくりくまもとネット」は、「熊本を中心とした地域の活性化」(ひとづくりくまもとネットホームページ：<http://comhits2014.wixsite.com/hitodukuri>)を目的として 2006(平成 18)年 11 月 20 日に結成された NPO 法人で、公共施設の管理事業や健康スポーツ事業などを主な活動としている。

注 8) 平成 28 年度は、本事業が 7 月に委託された関係で、日程の都合がつかず岩手県では教員セミナー、熊本県ではワークショップを実施することができなかった。そのため、本稿では、教員セミナーとワークショップの両方を実施することができた広島県を事例として紹介する。なお、岩手県で開催したワークショップ(2017 年 2 月 10 日)は、

第 60 回岩手県教育研究発表会の体育／保健体育分科会に合わせて実施し、佐藤豊氏(桐蔭横浜大学), 鈴木雅孝氏(岩手県教育委員会), 吉田哲氏(岩手県立一戸高等学校), 吉永武史氏(早稲田大学スポーツ科学学術院)の4名が登壇した。また、熊本県で開催した教員セミナー(2016年11月4日)は、平田浩一氏(熊本県教育庁教育指導局), 深見英一郎氏(早稲田大学スポーツ科学学術院), 杉山正明氏(早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター)の3名が登壇した。

注9) 広島県では、2016(平成28)年12月5日(13時30分～16時30分)に第2回教員セミナーが開催された。しかし、第2回教員セミナーは「広島県高等学校教育研究大会保健体育部会第2回研究大会」を兼ねて開催された関係で、第1回と同様の内容の講義となった。第2回教員セミナーにおける講義は以下の通りである。光橋健氏(広島県教育委員会スポーツ振興課)「広島県コンソーシアムの取組について」、杉山正明氏(早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター)「オリンピック・パラリンピック教育の意義について」、大越正大氏(東海大学)「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて」

注10) 各県のオリンピック・パラリンピック教育は、それぞれ岩手県5校(小学校2校, 中学校1校, 高等学校1校, 特別支援学校1校), 広島県10校(高等学校10校), 熊本県24校(小学校12校, 中学校9校, 高等学校2校, 特別支援学校1校)であったが、日程調整の関係で実施できなかった学校がある。そのため、本稿では、実施できなかった学校を省いた数を推進校として表記している。

## 文 献

- ・「ゲットセット」ホームページ、  
<http://www.getset.co.uk/>
- ・人づくりくまもとネットホームページ、  
<http://comhits2014.wixsite.com/hitodukur>

i

- ・岩手日報(2017)1月8日付朝刊
- ・見坊豪紀、市川孝、飛田良文、山崎誠、飯間浩明、塩田雄大編(2014)三省堂国語辞典第七版、三省堂、東京
- ・熊本日日新聞(2017)2月25日付朝刊
- ・内閣府(2015)東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査、  
[http://survey.gov-online.go.jp/h27/h27-tokyo/3\\_chosahyo.html](http://survey.gov-online.go.jp/h27/h27-tokyo/3_chosahyo.html)
- ・日本オリンピック・アカデミー編(2008)ポケット版オリンピック事典、楽、東京
- ・日本財団パラリンピックサポートセンターホームページ、  
<https://www.parasapo.tokyo/news/123/>
- ・新村出編(2008)広辞苑第六版、岩波書店、東京
- ・オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議(2016)オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて最終報告、  
[http://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/shingi/004\\_index/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2016/07/29/1375094\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/004_index/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/07/29/1375094_01.pdf)
- ・ローラント・ナウル(2016)オリンピック教育、大修館書店、東京
- ・高木啓(2013)「遺産」としての「一校一校運動」長野市立徳間小学校の取り組みを中心に、石坂友司、松林秀樹編<オリンピックの遺産>の社会学、青弓社、東京、pp.134-149
- ・東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ホームページ、  
<https://tokyo2020.jp/jp/>
- ・東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部(2015)2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針、  
[http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020\\_suishin\\_honbu/kaigi/dai2/siryoku1-2.pdf](http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/kaigi/dai2/siryoku1-2.pdf)
- ・東京都教育委員会ホームページ、

- <https://www.o.p.edu.metro.tokyo.jp/index>
- ・ 筑波大学オリンピック教育プラットフォームホームページ、  
<http://core.taiiku.tsukuba.ac.jp/project>
- ・ 早稲田大学オリンピック・パラリンピック

教育研究センター（2017）平成 28 年度スポーツ庁委託事業 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業報告書

資料

資料 1: オリンピック・パラリンピック教育モデル授業指導案

高等学校
保健体育科（体育）の事例

**【考え・基礎知識】**  
オリビズム・オリンピックムーブメントについて理解し、スポーツの文化的価値について説明できる。

**【つながり】**  
オリンピックの意義や価値と現代スポーツ・オリンピックの課題を比較しながら、関連付けて、現代スポーツの特徴について説明できる。

**【応用・ひろがり】**  
スポーツの概念について理解（永続的理解）し、生涯を通じて、多様にスポーツを楽しむながら、その価値にふれ、豊かな人間性を育むことができる。

- ◇ 学年 第1学年
- ◇ 単元名 スポーツの歴史、文化的特性や現代スポーツの特徴
- ◇ 本時の目標 オリビズムムーブメントについて理解し、現代スポーツの特徴について、スポーツの社会的役割と課題を関連付けて説明することができるようにする。【思考・判断】
- ◇ 学習の流れ(4時間目/全6時間)

学習活動	指導上の留意事項(◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準(観点) (評価方法)
<b>1 課題意識を持つ。【協働的な学び】</b> 問い① ドーピングの問題点 「あなたは、陸上競技100m競走の選手です。目の前に飲めば必ず誰でも100mを9秒台で走れる。人体に全く害のない薬があるとします。あなたはこの薬を使い競技力を向上させることに賛成ですか、反対ですか、その理由とともに答えなさい。」	◇グループで問い①について話し合い、発表させる。	
<b>2 ドーピングについて理解する。【講義中心の学び】</b> ・ドーピングの実態について ・ドーピングが行われる背景について	◇ドーピングの現状と背景について考えさせ、ドーピングは身体的悪影響のみならず、スポーツの文化的価値を失墜させることを理解させ、前時の学習内容(メディア等がスポーツを運ぶ可能性)と関連付けながら現代スポーツの課題について考えさせる。	導入における発問作成のポイント ①授業のめあてにつながること ②既習の学習内容とのつながりを意識できること ③生徒が自ら考えたいくなるものであること
<b>3 本時のめあてを確認する。</b> 現代社会におけるスポーツの特徴と、オリビズムムーブメントの役割について考えよう。		
<b>4 スポーツの持つ力について考える。【協働的な学び】</b> ・問い②についてブレインストーミング	◆ブレインストーミングのシナジー効果を高める四原則を参考に、ブレインストーミングの活性化を支援	
問い② スポーツの力 「今まで、スポーツで感動したことを、その理由とともに答えなさい。」 ・最も印象深かった内容を発表(掲示) ・多様なスポーツの力について理解	◇全員の意見を、ICT等を活用し一括提示し、KJ法で、「する」「みる」「支える」「知る」に分類整理し、スポーツの持つ多様な力を実感させる。	
<b>5 オリビズム・オリビズムムーブメントについて理解する。【講義中心の学び】</b>	◇スポーツの力による社会運動の視点から、オリビズムとオリビズムムーブメントについて整理し、内容をペアで説明し合う。	講義の中でも、認知プロセスの外化を図ることで、断片的な知識をつながら学習内容を振り返らせる。
<b>6 本時のまとめ 【協働的な学び】</b> ・問い③についてグループごとで話し合い、発表	【課題発見】の場面で、現代スポーツの特徴とオリビズムを比較し、スポーツの概念について考えさせる。	
問い③ 近代オリビズム提唱者ビエール・ド・クーベルタンの喜びと嘆き 「もし、現代スポーツの現状をクーベルタンが知ったとすると、何を喜び、嘆くと思いますか。」 ・ポートフォリオの作成	◇次時、パフォーマンス課題の発表を行うことを伝える。 ◇ルーブリックを示し、課題に向かう視点を明確にする。	既習の知識(スポーツの適度な商品化などの課題)と関連付けて考えることを意識させる。  ・オリビズム競技大会から見られる現代スポーツの特徴について、意義や価値と課題を関連付けて、論理的にまとめている。 (思考・判断) (パフォーマンス課題) (ポートフォリオ)
<b>7 本時を振り返り、次時につなげる。</b> ・課題の確認 ・ルーブリックの確認	単なる答えのまとめではなく、答えに至る過程がわかるマットの工夫が大切	
<b>パフォーマンス課題</b> あなたはある新聞社の論説委員です。2020年東京オリビズムに向けて、スポーツの意義や価値について、社説の執筆を担当することになりました。社説はその社の責任ある意見および主張として載せる論説です。今後のスポーツ・オリビズムの在り方について、社説を作成しなさい。	生徒を【深い学び】に導くためには、永続的理解を明文化させるなど、深い理解がなければ解決困難な課題を設定することが大切	
<b>生徒のまとめ例 (ポートフォリオ記述の例)</b> スポーツには、様々な意義や価値がある一方、現代ではスポーツが発展する中で過剰な商品化が進み、オリビズム競技大会や現代スポーツが抱えている、様々な課題や現状を理解することができた。また、オリビズムムーブメントとは、これまでは単に大会を盛り上げるための運動であると考えていたが、スポーツの持つ力を利用し、オリビズム競技大会などを通じて人々の友好を深め、世界平和に貢献しようとする社会運動であることが理解できた。		

(広島県教育委員会作成)

資料 2: オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート(小学校・特別支援学校用)

## オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート

( ) 年 ( ) 組 ( 男 ・ 女 )

今日の授業を受けた、あなたの感想を聞かせて下さい。以下の質問をよく読んで、あてはまるものにチェックを入れて下さい。(それぞれ1つ選んでください。)

1 2020年 東京オリンピック・パラリンピック大会に対する理解・かん心が高まりましたか。

とてもそう思う  ややそう思う  あまりそう思わない  まったくそう思わない

2 オリンピック・パラリンピックならびにスポーツの意味や大切さに対する理解・かん心が高まりましたか。

とてもそう思う  ややそう思う  あまりそう思わない  まったくそう思わない

3 2020年 東京オリンピック・パラリンピック大会のおうえんについて、あなたはどのように考えていますか。あなたの気持ちにもっとも近いものを1つ選んでください。

- 試合会場に行っておうえんしたい
- スタジアムや広場の会場に用意された大きな画面を見て、みんなでおうえんしたい
- 自分の家のテレビなどでおうえんしたい
- テレビなどでたまたま見ることがあれば、おうえんするかもしれない
- おうえんしない

4 これからの人生において、しょうがい者もいっしょになって、せっきょくてきにスポーツに参加したいと思えましたか。

とてもそう思う  ややそう思う  あまりそう思わない  まったくそう思わない

5 スポーツをすることで、自分で考えて行動することができたり、親しい友だちをつくったりすることができると思いますか。

とてもそう思う  ややそう思う  あまりそう思わない  まったくそう思わない

6 今日の授業に対する意見や感そうを書いてください。

資料 3: オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート(中学校・高等学校・特別支援学校用)

## オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート

( ) 年 ( ) 組 ( 男 ・ 女 )

本日の授業を受けた、あなたの感想を聞かせて下さい。以下の質問をよく読んで、あてはまるものにチェックを入れて下さい。(それぞれ1つ選んで下さい)

1 2020年 東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか。

とてもそう思う  ややそう思う  あまりそう思わない  まったくそう思わない

2 オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか。

とてもそう思う  ややそう思う  あまりそう思わない  まったくそう思わない

3 2020年 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか。あなたの気持ちにもっとも近いものを1つ選んでください。

- 試合会場に行って観戦したい
- パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい
- 自宅のテレビなどで観戦したい
- テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない
- 関心があまりない

4 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか。

とてもそう思う  ややそう思う  あまりそう思わない  まったくそう思わない

5 スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか。

とてもそう思う  ややそう思う  あまりそう思わない  まったくそう思わない

6 本日の授業に対するご意見、感想を書いてください。